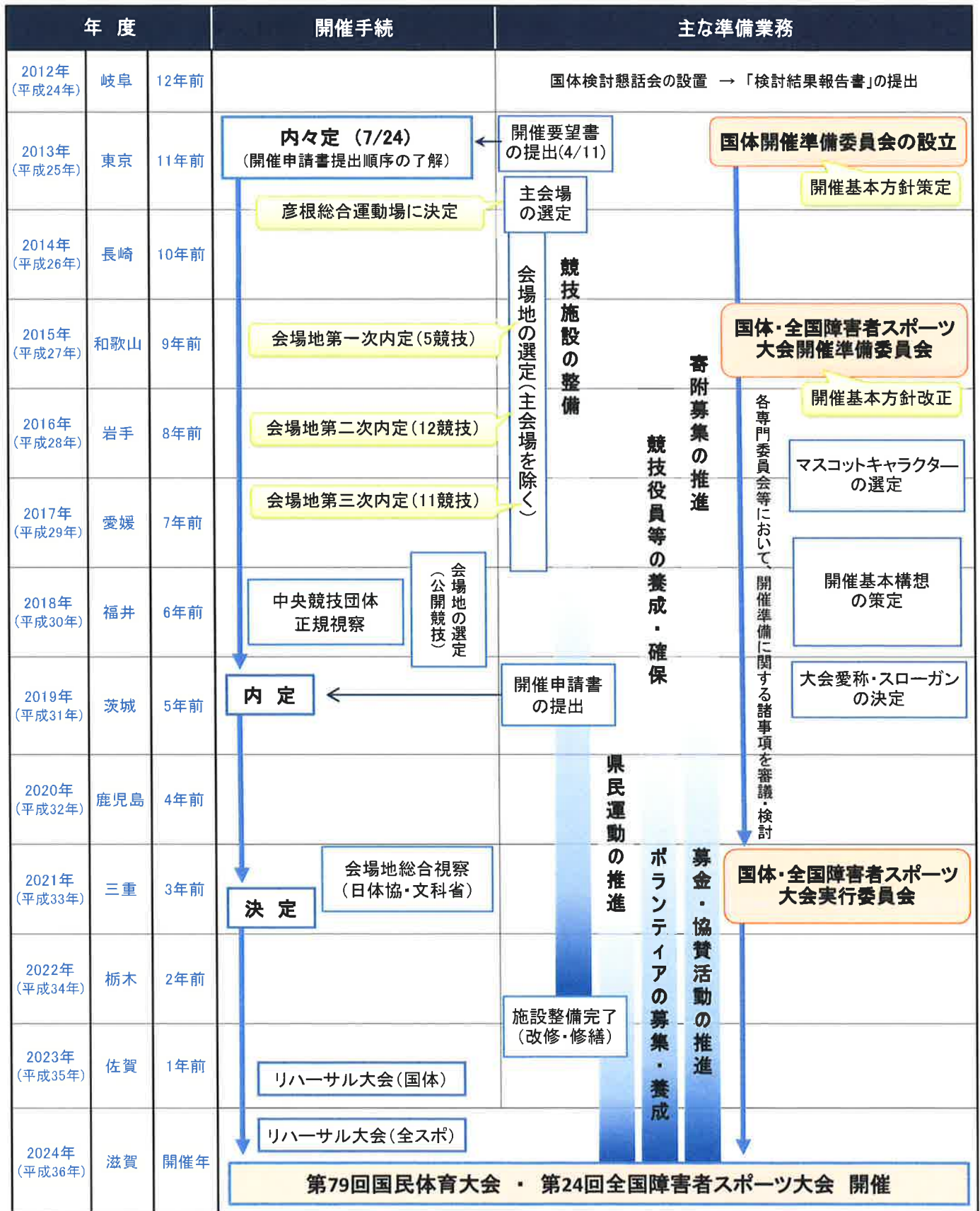


第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会 開催準備スケジュール



第79回国民体育大会 各競技会場の内定状況について

○内定済み(第一次～第三次) … 28競技(正式競技27、特別競技1)

No	競技名		第79回国体 会場地				(参考) びわこ国体会場地
			内定時期	市町名	施設名	種別	市町村名
1	陸上競技		H26.5.26	彦根市	(仮称)彦根総合運動公園陸上競技場	全種別	大津市
2	水泳	競泳					彦根市
		シンクロ					—
		水球					長浜市
		飛込					彦根市
3	サッカー	②H28.8.3	東近江市	布引運動公園陸上競技場 京セラ株式会社滋賀八日市工場 総合グラウンド	成年男	水口町、甲西町	
			大津市	皇子山総合運動公園陸上競技場 伊香立公園芝生グラウンド びわこ成蹊スポーツ大学陸上 フィールド	女子		
			守山市	野洲川歴史公園サッカー場 (ビッグレイク)	少年男		
4	テニス		②H28.8.3	大津市	大石緑地スポーツ村テニスコート	全種別	彦根市
5	ボート		②H28.8.3	大津市	滋賀県立琵琶湖漕艇場	全種別	大津市
6	ホッケー		③H29.7.31	米原市	県立伊吹運動場、米原市伊吹第 1グラウンド	全種別	伊吹町
7	ボクシング						能登川町
8	バレーボール	②H28.8.3	草津市	草津市立総合体育館 野村公園体育館	成年男 成年女	近江八幡市、守山市	
			近江八幡市	近江八幡市立運動公園体育館	少年男		
			守山市	守山市民体育館	少年女		
9	競技	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	全種別	栗東町	
	新体操	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	少年女	—	
10	バスケットボール	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	成年男 少年男	大津市	
			野洲市	野洲市総合体育館	成年女		
			草津市	野村公園体育館	少年女		

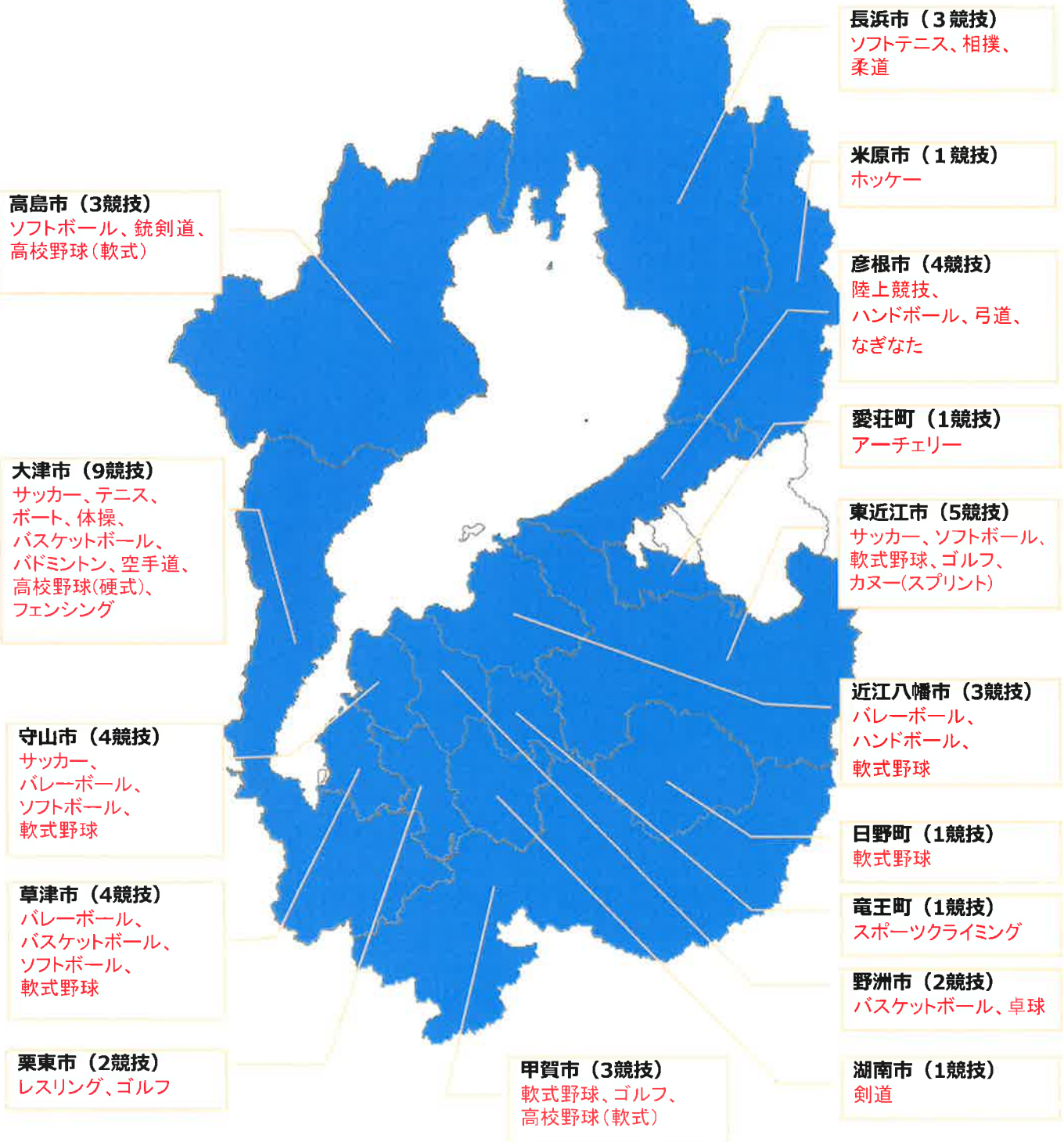
No	競技名		第79回国体 会場地				(参考) びわこ国体会場地
			内定時期	市町名	施設名	種別	市町村名
11	レスリング		②H28.8.3	栗東市	栗東市民体育館	全種別	甲賀町、信楽町
12	セーリング						大津市
13	ウエイトリフティング						安曇川町
14	ハンドボール		③H29.7.31	彦根市	(仮称)彦根市新市民体育センター 県立彦根東高等学校体育館 県立彦根工業高等学校体育館 彦総グリーンアリーナ(彦根総合高等学校体育館)	全種別	彦根市
				近江八幡市	近江八幡市立運動公園体育館	少年男 少年女	
15	自転車	トラック					大津市
		ロード					八日市市、蒲生町、日野町、 永源寺町、愛東町、湖東町
16	ソフトテニス		①H27.8.31	長浜市	長浜市民庭球場	全種別	長浜市
17	卓球		②H28.8.3	野洲市	野洲市総合体育館	全種別	草津市
18	軟式野球		③H29.7.31	近江八幡市	近江八幡市立運動公園野球場	成年男	近江八幡市、守山市
				草津市	草津グリーンスタジアム		
				守山市	守山市民球場		
				甲賀市	甲賀市民スタジアム		
				東近江市	ひばり公園湖東スタジアム		
				日野町	大谷公園野球場		
19	相撲		①H27.8.31	長浜市	長浜バイオ大学ドーム (滋賀県立長浜ドーム)	全種別	日野町
20	馬術						栗東町
21	柔道		②H28.8.3	長浜市	木之本運動広場体育館	全種別	木之本町
22	ソフトボール		②H28.8.3	東近江市	布引運動公園多目的グラウンド	成年男	草津市、八日市市
				高島市	今津総合運動公園第2グラウンド	成年女	
				草津市	野村公園グラウンド	少年男	
				守山市	守山市民運動公園ソフトボール場・ 市民スポーツ広場	少年女	
23	フェンシング		③H29.7.31	大津市	ウカルちゃんアリーナ (滋賀県立体育館)	全種別	五個荘町
24	バドミントン		②H28.8.3	大津市	新県立体育館	全種別	大津市
25	弓道		③H29.7.31	彦根市	(仮称)彦根市新市民体育センター	全種別	長浜市
26	ライフル 射撃	センター・ファイア・ピストル					大津市
		センター・ファイア・ピストル以外					
27	剣道		①H27.8.31	湖南市	湖南市総合体育館	全種別	今津町

No	競技名		第79回国体 会場地				(参考) びわこ国体会場地
			内定時期	市町名	施設名	種別	市町村名
28	スポーツクライミング	リード	③H29.7.31	竜王町	竜王町総合運動公園	全種別	高島町、志賀町、朽木村
		ボルダリング					
29	ラグビーフットボール						野洲町
30	カヌー	スプリント	③H29.7.31	東近江市	東近江市能登川水車とカヌーランド	全種別	大津市
		スラローム・ワイルドウォーター					
31	アーチェリー		①H27.8.31	愛荘町	愛荘町スポーツセンター 秦荘グラウンド	全種別	秦荘町
32	空手道		②H28.8.3	大津市	ウカルちゃんアリーナ (滋賀県立体育館)	全種別	湖東町
33	銃剣道		③H29.7.31	高島市	新旭体育館	全種別	今津町
34	なぎなた		③H29.7.31	彦根市	パナソニック株式会社アプライアンス社彦根工場多目的ホール	全種別	—
35	ボウリング						—
36	ゴルフ		③H29.7.31	栗東市	琵琶湖カントリー倶楽部	成年男	—
				甲賀市	ベアズパウ ジャパン カントリークラブ	少年男	
				東近江市	名神八日市カントリー倶楽部	女子	
37	トライアスロン						—
38	高等学校野球	硬式	①H27.8.31	大津市	皇子山総合運動公園野球場	—	大津市
		軟式	③H29.7.31	甲賀市	甲賀市民スタジアム	—	彦根市
				高島市	今津スタジアム		

注) 1 開催予定施設は、現時点で競技を開催できる能力を有する施設として判断したものであり、今後、中央競技団体視察の結果等により、会場の追加・変更等が生じる場合がある。

会場地市町内定（第一次～第三次）配置図

主会場決定（平成26年5月26日）
 第一次内定（平成27年8月31日）
 第二次内定（平成28年8月3日）
 第三次内定（平成29年7月31日）

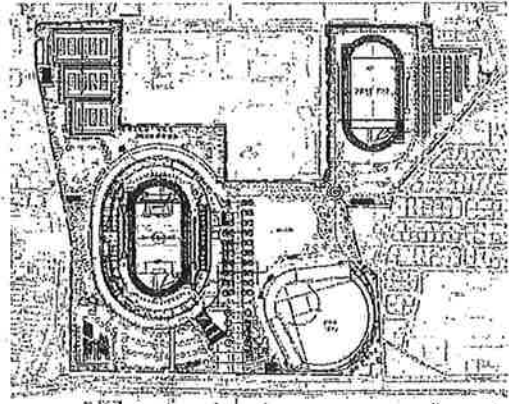


I (仮称)彦根総合運動公園

1 これまでの経過

時期	経過
平成 26 年度	5 月：県立彦根総合運動場を主会場に決定、3 月：公園整備基本構想の策定
平成 27 年度	8 月：公園整備基本計画の策定
平成 28 年度	9 月：公園整備基本設計の取りまとめ、12 月：都市計画公園の区域変更
平成 29 年度	4 月：都市計画法に基づく事業認可 現在：公園整備実施設計、第 1 種陸上競技場建築基本設計を進めているところ

2 公園整備の概要

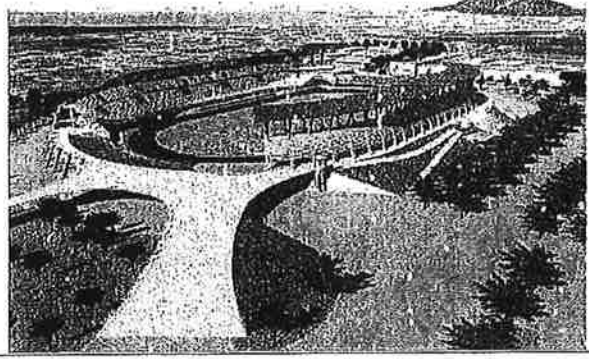
<p>①県立彦根総合運動場を隣接する金亀公園と一体的に利用できる都市公園に再整備</p> <p>②運動施設として第 1 種・第 3 種陸上競技場、庭球場を整備</p> <p>③公園施設はエントランス広場、緑の広場、休憩所、植栽、散策路、ジョギングコース、便所等を整備</p> <p>④防災機能、民間活力の導入、県産材など自然素材の活用を検討</p>	<p>⑤施設配置図 (公園面積 21.8ha)</p> 
--	---

3 概算事業費

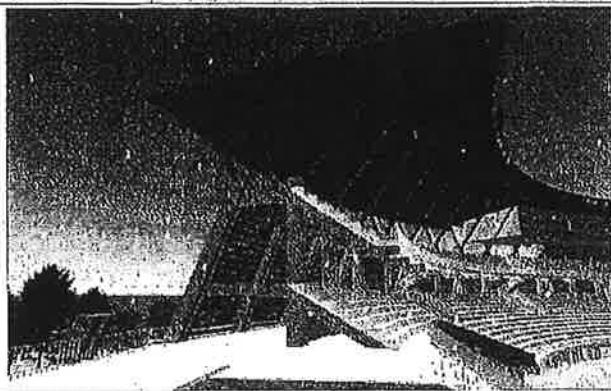
約 200 億円

※内訳 施設整備費：約 116 億円、基盤工事費：約 30 億円、地盤対策費：約 18 億円
用地補償費：約 26 億円、間接費：約 10 億円

4 第 1 種陸上競技場の建築基本設計の検討状況

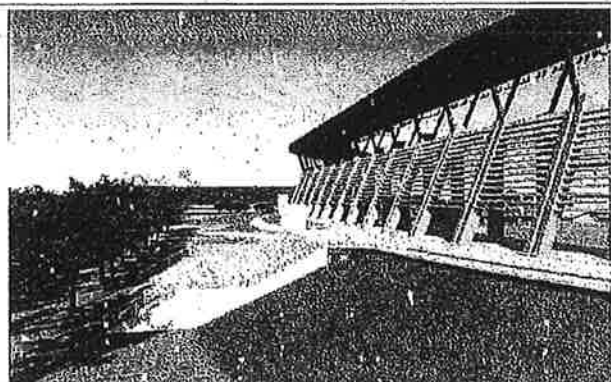
①スタジアム全体図	
 <p>・収容人員：15,000 人以上 固定席数：メインスタンドに約 7,000 席 ・トラックは 400m×9レーン (全天候舗装)、フィールドは天然芝、多目的利用可能 ・メインスタンド・バックスタンドの観客席全面に屋根を設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根の先端付近に照明設備を設置 ・2階コンコースレベルを回遊できる歩道空間 (スタジアムリング) を設置し、屋外の大階段 3 か所、スロープ 1 か所を設置し、スタジアム内外のアクセスを向上 ・北側 (奥側) のサイドスタンドに大型映像装置を整備 ・両スタンドにエレベーターを設置 ・スタジアム全体を住宅地から離し、植栽により圧迫感を低減 ・屋内仕上げ材等に県産材等を活用 ・自然換気、芝生散水に雨水を利用するなど環境負荷の縮減 ・建物の耐力の確保、自家発電装置の設置

②メインスタンド



- ・メインスタンドは鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の5階建て、屋根の最高の高さは24m程度
- ・メインスタンドの観客席は2層構成
- ・スタンド部分の柱と梁は檜形状に構成
- ・外壁は真壁造や下見板張り風デザイン

③バックスタンド



- ・バックスタンドは鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の2階建て、屋根の最高の高さは24m程度
- ・スタンド部分の柱と梁は檜形状に構成
- ・外壁は真壁造や下見板張り風デザイン
- ・1階部分に雨天走路を整備

■諸室の配置

- 1F： エントランスホール、更衣室、会議室、事務室、情報処理室、記者室、記者会見室、ドーピング検査室、器具庫、雨天走路、トレーニング室など
- 2F： 倉庫、売店、観覧席、コンコースなど
- 3F： 観覧席、倉庫、コンコースなど
- 4F： 貴賓室、観覧席、コンコースなど
- 5F： 放送室、写真判定室、指令室、大型映像装置操作室など

5 今後の主な予定

時期		今後の主な予定
平成 29 年度	10 月下旬	住民説明会等（現有施設解体工事、スタジアムの検討状況） 彦根総合運動場現有施設の解体工事に着手（～平成 30 年度）
	12 月下旬	第 1 種陸上競技場建築基本設計の取りまとめ
	2 月下旬	公園整備実施設計の取りまとめ
	3 月上旬	第 1 種陸上競技場建築実施設計に着手
平成 30 年度		公園整備工事に着手（～平成 34 年度、庭球場等は平成 36、37 年度） 第 1 種陸上競技場建築実施設計の取りまとめ
平成 31 年度		第 1 種陸上競技場建築工事に着手（～平成 34 年度）

背景

滋賀県彦根総合運動場を団体主催の施設基準を満たす第1種陸上競技場を備えた公園として再整備するため、平成27年3月に公園整備基本構想を策定し、その後、平成27年8月に公園整備基本計画を策定。これらを踏まえ、公園整備計画の具体化に向け、各種設計条件との整合を図りつつ、特に彦根城の世界遺産の取組や地域活性化のほか防災機能の強化等にも配慮しながら、諸施設的设计指針を明らかにするとともに、施設配置や形状、基礎施設、植栽等について基本設計を取りまとめた。

公園のイメージ

◆体力・健走づくり、夢育での場 ◆多様な主体の交流の場 ◆歴史・文化などとの触れ合いの場

公園整備の基本的な考え方

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備する。

- A: 団体開催を契機とした県民のスポーツ拠点としての機能強化
- B: 団体開催後も世代をこえて人々に愛着をもって利用される多様な機能を備えた公園整備
- C: 彦根城をはじめとする周辺の景観に調和した公園整備

基本設計の方向性 (1) 運動施設の整備水準

- 第1種陸上競技場 ①トラック・フィールド：400m×90m、フィールド内は多目的利用可能
- ②収容人員：15,000人以上(芝生席を含む)、固定席数：メインスタンドに約7,000席
- ③延べ床面積：約23,000㎡ ④附属施設：メインスタンドおよびバックスタンドに屋根を配置、向スタンドの屋根に照明設備(照明柱は設置しない。) ⑤補室：更衣室、雨天走路、用具庫、放送室、司令室、写真判定室、情報処理室、医務室、ドーピング検査室、ウェイト・トレーニング室、記者室など
- 第3種陸上競技場 ①トラック・フィールド：400m×80m、フィールド内は多目的利用可能。
- ②付原施設：管理棟
- 広球場 ①競技用砂入り人工芝コート12面
- ②付原施設：管理棟、スタンド(1,000人程度収容)、夜間照明灯設置
- 野球場 (存置：現施設を継続して使用)

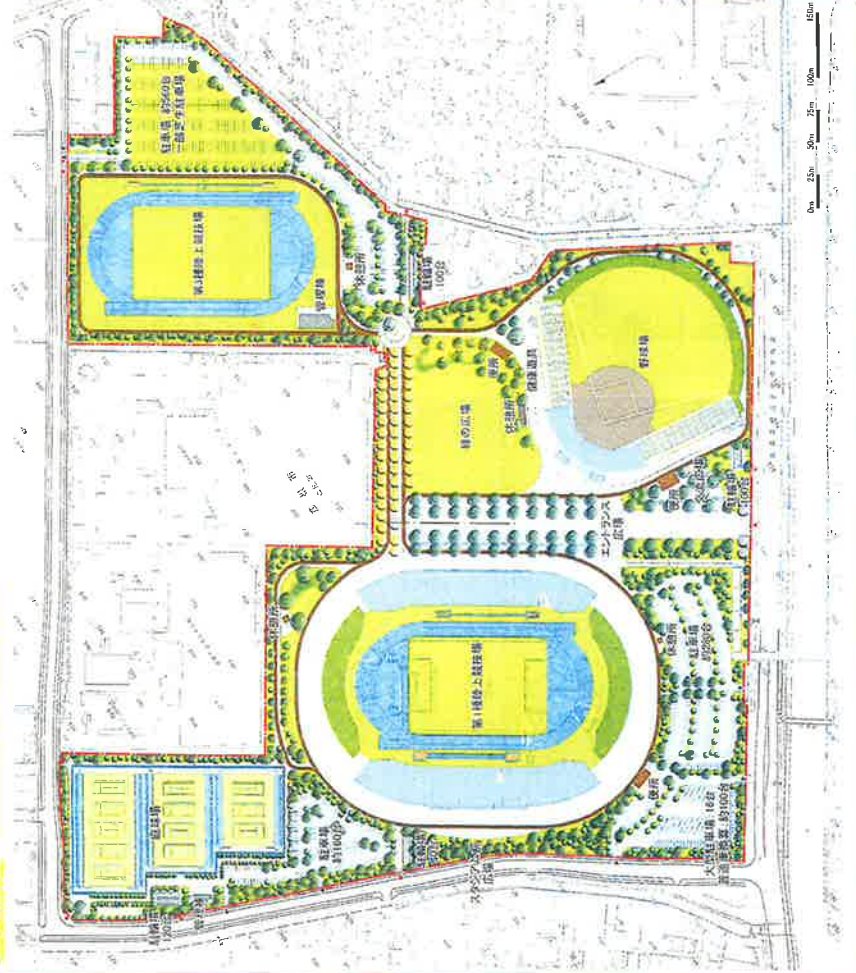
基本設計の方向性 (2) 公園施設等

- 園路 幹線園路(幹線園路幅15m程度以上、補助幹線園路幅6~3m)、散策路やジョギングコース(延長約2.5km)を配置。
- 駐車場・駐輪場 駐車場は約1,100台(一部芝生駐車場)、駐輪場は約380台を配置。
- 植栽 彦根山や玄倉園と連続する植栽、周辺の住環境に配慮した植栽、見通しのよい植栽。
- 休養、サービステラセ 場内各所に休憩所(4ヶ所)や便所(運動施設利用者用以外に単独棟3棟)。
- 遊戯施設 県民の健康づくりを目的に健康遊具を検討。

基本設計の方向性 (3) 機能強化ほか

- 子ザイン 周辺景観に調和したデザイン、色調とする。
- 住民参画 ワークショップでいただいたアイデアのうち、芝生駐車場や水景施設などを取り入れて検討。
- 防災 緊急輸送機能、緊急消防援助機能、避難・備蓄機能を備えた防火公園として設計(例：第1種、第3種陸上競技場、野球場をヘリポート利用、一時避難所等)。
- 地域活性化・民間活力導入 整備段階：滋賀県産材を活用したベンチ等の整備、周辺観光施設等を含めたサイン設置。
- 運営段階：周辺のイベント(ご城下にぎわい市、ピワイチサイクルステーション等)との連携、スポーツ教室の導入(カフェ・サイクルショップ等)について引き続き検討
- 金龜公園との一体利用 金龜公園と一体的な利用ができるよう施設計画や役割分担を調整。連絡橋の配置や幅員等の概略検討を実施。
- 住環境に配慮した施設設計 建物の高さ抑制や、光害対策を施した照明器具、防犯に配慮した照明灯の設置等を計画、第1種陸上競技場の西側植栽地を拡幅するとともに遮蔽機能向上のため盛土を検討。

基本設計図 公園面積 21.8ha (現況約 14ha)



エントランス広場から彦根城を望む

II 新県立体育館

新県立体育館整備事業について

本県では、平成36年度に開催予定の第79回国民体育大会および第24回全国障害者スポーツ大会を契機として、スポーツ・健康づくりの拠点整備を目指して、老朽化が進み狭隘となった現県立体育館をびわこ文化公園都市内に移設整備することとした。

このため、新県立体育館の施設内容、諸室構成・規模、整備手法等について、関係分野の団体や学識経験者等を委員とした「施設整備検討懇話会」での議論等を踏まえて検討を行い、平成29年3月に「新県立体育館施設整備基本計画」を策定して、整備に向けた取り組みを進めている。

1. 事業手法について

本手法については、民間事業者への意向調査やVFMの算定結果、他府県の先行事例等を踏まえて検討を行い、下記の理由によりPFI方式により事業を進めていくこととした。

- ①従来方式に比べてコストが削減され、約8%のVFMが見込まれること
- ②財政支出の平準化が図られること
- ③広く民間の技術的・経営ノウハウや創意工夫を活用することが期待できること
- ④契約期間が長期に及ぶため、長期的なビジョンに基づく事業経営、質の高い人材の確保などの効果が期待され、それらを通じたサービス水準の向上が見込まれること
- ⑤民間事業者への意向調査において、ほとんどの民間事業者が本事業への関心を示し、先行事例においても競争環境が確保されており、サービス水準の向上やコスト削減効果が期待できること

2. 整備スケジュール

国民体育大会や全国障害者スポーツ大会の円滑な準備と開催に向けて、平成34年度末までの完成を目指すこととしている。

	H29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
造成工事	基本設計・実施設計		造成工事			
各種調査	測量・地質・環境調査					
許認可等の手続き	都市計画等許可手続き					
建築工事(PFI方式)	実施方針等公表	入札公告	事業者決定	設計・建築工事		完成・開業

3. 事業の進捗状況について

(1) 実施方針の策定等

- ・ P F I 方式で行う事業の概要や事業者の選定方法等を示す「実施方針」、事業者が満たすべき要件やサービス水準を示す「要求水準書」案の公表に向けて検討を進めている。

(2) 造成工事等

- ・ 平成 31 年度からの造成工事実施に向け、測量・地質調査および設計業務を進めている。
- ・ 工事期間中および供用開始後の周辺環境に配慮すべく、今年度から実施する環境影響調査の結果を踏まえ、必要な対策を講じる。

(3) その他

① 都市計画審議会（用途地域の変更）

- ・ 用途地域の変更（第一種低層住居専用地域から近隣商業（予定）への変更）について、9月29日に開催された大津市都市計画審議会において認められた。

② 保安林の解除について

- ・ 今回の建設予定地については、普通林となっている。なお、新設進入路および排水路の設置予定地の一部が保安林となっていることから、現在関係機関と協議を行っている。

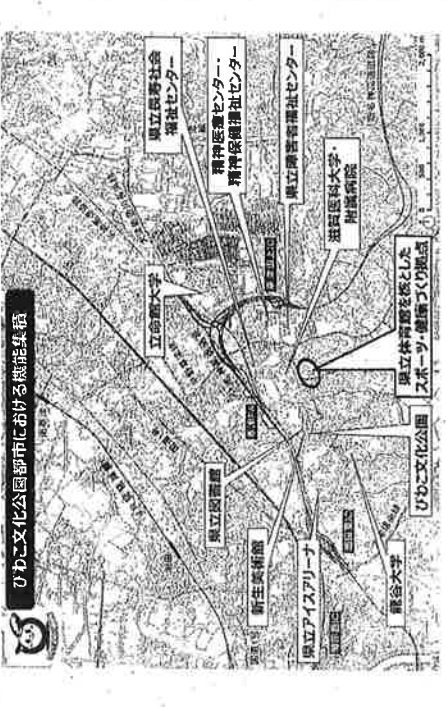
新 泉 立 体 育 館 施 設 整 備 基 本 計 画

【 概 要 版 】

計画地の概要・敷地条件

●びわこ文化公園種市

びわこ文化公園種市は、大津市瀬田・上田上地域から草津市にかけて広がる丘陵地に位置し、文化、芸術、医療、福祉、教育、研究、レジャー・エンターテインメント等の多様な施設が集積している。びわこ文化公園種市内に新泉立体体育館を移したスポーツ・健康づくりの拠点を整備することにより、高い地域ポテンシャルを有効活用するとともに、拠点性の向上といった相乗効果が期待できる。



びわこ文化公園種市における機能経路

基本方針・目指す姿等

●基本方針

- 「新しい滋賀の原動力をつくる文化・スポーツ戦略」推進の拠点にふさわしい、県民のスポーツ・健康づくり、文化活動の中核施設とする。
- 平成36年開催の第19回国民体育大会、第24回全国障害者スポーツ大会を見据え、全国規模の大会を開催するにふさわしい施設とする。
- すべての人が安全に安心してスポーツや文化の「する」「みる」「あそぶ」に参画することができる。ユニバーサルデザインの考え方に基き、誰もが使いやすい施設とする。

●スポーツ・健康づくり拠点整備の基本コンセプト

すべての県民がスポーツに参画し健康づくりに取り組みむとともに、さまざまな交流や連携を通じて、元気で豊かな生活と滋養を創造する県民の拠点を「目指す」。

●拠点整備の目指す姿

基本方針・基本コンセプトを踏まえ、拠点整備の目指す姿として6つの柱を設定する。



導入機能

●体育館の導入機能

- ① メインアリーナ機能
 - アリーナ面積：2,760㎡(69m×40m)程度
 - (バスケットコート3面、バレーコート3面)
 - アリーナ高さ：14m以上
 - 観客席：5,000席程度(固定席約2,500席、可動席・仮設席約2,500席)
 - (観客席後方にウォームアップ用ランニングコースを設ける)
- ② サブアリーナ機能
 - サブアリーナ面積：1,026㎡(27m×38m)程度
 - (バスケットコート1面、バレーコート1面)
 - アリーナ高さ：12m以上
- ③ トレーニング・体力測定室機能
- ④ 多目的室機能
 - ダンス、エアロビクス、ヨガ、軽スポーツなど種目を限定せず、多目的に活用できるスペースを確保
- ⑤ 更衣室、器具庫、トイレ等機能
- ⑥ 会議室機能
- ⑦ キッズルーム、授乳室機能

屋外施設の導入機能

●屋外施設の導入機能

- ① 多目的広場等機能
 - フットサルやラグビーなど気軽に運動やトレーニングができ、多様なイベントへの対応、防災面でも活用できる多目的広場を設け(大規模イベント時には、臨時駐車場として活用)
- ② 駐車場等機能
- ③ その他外構施設機能
 - 造成法面の緑化など、線による潤いのある空間を創出。施設管理やメンテナンス利用時のバックヤード、サービス動線の確保

●レストラノ等サービス施設

体育館利用者の利便性向上を旨とし、民間事業者の意向も踏まえながら検討

●その他の導入機能

- ① 地域防災拠点としての役割への配慮
 - 災害時の救護物資の集積拠点、近隣住民の避難所としての役割に配慮した検討
- ② 景観への配慮
 - 大規模災害時の近隣施設との連携についても検討
- ③ 有エネルギーへの配慮
 - 滋賀県産木材などの自然素材・地域資源を活用した施設づくり
 - 太陽光発電の導入など自然エネルギーの有効活用、館内LED照明化による電力削減、雨水利用設備の導入など、コスト面・環境面に配慮して積極的に検討
- ④ 将来の拡張性への配慮
 - 計画敷地の将来的な拡張や、アクセス改善にも対応した施設配置に配慮

計画地の概要・敷地条件

●交通アクセス

- ① 自動車交通でのアクセスが至便であるとともに、鉄道駅からのバス交通も充実している。
- ② 一般道路：国道1号、京浜バイパス、大津能登川長浜線、平野草津線等の幹線道路に近接
- ③ 公共交通：JR琵琶湖線瀬田駅、南草津駅より路線バスが運行

●敷地条件

- ① 所在地：大津市上田上中野町地先(びわこ文化公園種市内)
- ② 敷地面積：約11ha(112,300㎡)

<計画地地図>



※用途地域等：第一種低層住居専用地域、第一種高度地区

※整備に向けて、用途地域および高度地区等の変更手続が必要

●交通アクセスルートへの改良
アクセスについては、バス交通の充実も視野に、進入道路等の改善、アクセス路の新設等を行う方針



- ① 新県立体育館敷地への進入レーンの設置
 - ・新県立体育館への来場者車両による通行への支障を避け、交通の流れを円滑化
- ② 大津市道(東幹2153号)の線形改良
 - ・大型車両との衝突を防止
 - ・風通しを良くすることにより事故を防止
- ③ 都市計画道路 平野南線(3・3・12号)からのアクセス道路の整備
 - ・新県立体育館への来場者車両を分散させることにより渋滞を緩和
 - ・災害時等におけるリスクを削減し、複数の進入路を確保

施設整備計画

●必要諸室・規模の設定(イメージ)

用途等	必要諸室	必要面積	備考
メインアリーナ	面積2,780㎡程度 高さ14m以上	2,100~2,350㎡	必要諸室
サブアリーナ	練習室(施設管理室)、応接室(来賓室)、医務室、キッズルーム、控室、放送・音響・調光室、競技面体事務室、多目的室、トレーニング室、大ホール、体力測定用室、エンタランススペース(物品販売スペース)		
会議室	大会議室(120人程度) 中会議室(50~60人程度) 小会議室(20~30人程度)	480~600㎡	その他通廊・設備室等
その他	1,700~1,900㎡		
合計		14,000㎡程度	

※各室面積は現時点の目安であり、今後の検討により変動

●駐車場台数等の設定

項目	必要台数	説明
常設駐車場	400台程度	一般車両が駐車しやすいスペースを確保し、十分な数の専用車庫(駐車スペース)を確保し、十分な台数を確保
臨時駐車場(多目的広場)	500台程度	体育館での大規模イベント時には、多目的広場を臨時駐車場として有効に活用
合計	900台程度	

●土地利用・配管計画(イメージ)

- ・本館建物と駐車場等を効率的に配置
- ・車両については、北側進入レーンおよび東側アクセス道路の計画にあわせて、構内道路の配置・接続および駐車場の効率的なアクセス動線を確保

●平面・ゾーニング計画(イメージ)

- ・コンパクトな施設配置と機能性・利便性を両立した施設計画
- ・2つのアリーナゾーニングの同時利用が可能となるよう、機能的なゾーニング計画
- ・管理部門の配置は、適切な施設案内・受付と管理が可能をレイアウト
- ・メインアリーナの1階観客席は、背面収納可能な可動席と仮設席による構成とすることで、多様な座席のバリエーションを実現
- ・メインアリーナの2階観客席は、固定席とし、上部周囲に屋内ランニングコースを設置
- ・メインアリーナの客席は、通常利用や各種大会の試合に応じて1階可動席・仮設席の配置バリエーションをえることにより座席数のバリエーションを確保

●階層構成・断面計画(イメージ)

- ・多様な空間利用と施設のコmpactさの両方を実現した階層構成

大学をはじめとする周辺施設・機関との連携

●基本的な考え方

新県立体育館を整備する、ひびく文化公園都市には法政医科大学、龍谷大学、立命館大学などといったスポーツや健康に関する大学や県立大学等が複数存在する等の周辺関係機関等が整備されており、こうした大学・機関との連携により、スポーツ・健康に関する指導や健康づくりに関する県民向けの講座の開催、さらにはスポーツ・健康づくり拠点としての機能を一層高め、より大きな効果を期待できると見込まれる。

●協定される連携の方向性

- ① 県民のスポーツ・健康づくりに向けた連携
 - ① 大学の専門知識を活用した研修会や講習会の開催
 - ② 大学の研究と連携した運動プログラム等の開発
 - ③ 大学の社会・地域連携講座や教室の開催
- ② アスリートの競技力向上に向けた連携
 - ① 大学の先進設備を活用した競技力向上
 - ② 大学の知見を活かした栄養指導
 - ③ 大学の人材を活かした医療提供
- ③ 障害者のスポーツ推進に向けた連携

●事業費の算定

新県立体育館の事業費として、以下のとおり施設整備費、維持管理・運営費の概算を算定した。ただし、現時点での概算ではあるため、今後、検討の進捗等を踏まえ精査を行う。

(1) 施設整備費
本計画で示した導入機能、施設規模に基づき標準単価を適用して算定すると、約94億円程度と見込まれる。

費目	金額	備考
建設工事費	約74.1億円	建築・設備工事費、外構整備費
初期備品購入費	約2.3億円	体育・トレーニング関連、事務関連の什器備品
用地取得経費	約1.8億円	用地代
基礎造成経費	約12.0億円	基礎造成、新アクセス路、布道線形成費
調査・設計監理費(造成・建築)	約0.4億円	測量調査、基本設計設計、工事監理費
計	約90.6億円	※1

(2) 維持管理費・運営費
本計画で示した導入機能および施設規模、施設計画、必要とされる維持管理・運営業務に基づき他自治体の同規模体育館の事例等から算定すると、約2億円/年程度と見込まれる。

費目	金額	備考
運営・維持管理費	約1.4億円/年	人件費、仮設費、消耗品費、建築設備保守管理費、警備費、清掃費、光熱水費
長期修繕費	約0.8億円/年	大規模修繕費、備品更新費
計	約2.2億円/年	※2

費用対効果の試算

- ◆費用の算定 93.8億円(施設整備費)×2.2億円/年(維持管理・運営費)×50年=2303.8億円
- ◆効果の算定 40.3億円(施設整備費)×3.9億円/年(効果)/50年=235.3億円
- ◆費用対効果比 効果/費用=235.3億円/2303.8億円=115 > 1

事業手法の検討

●事業手法の整理

- (1) 事業手法の整理
本事業の事業方式を検討するにあたり、従来方式(公設民営方式)、DB方式、DBO方式、PFI方式について整理し、新規立体育館整備の方向性、本館の建築・設備工事、外構整備、初期備品購入およびこれに係る設計監理を業務範囲として検討する。(基礎造成については、事業期間を考慮し、従来方式により実施を想定)
- (2) 本事業方式の検討にあたっての民間事業者への意向調査
本事業に参画可能性のある業種を設定し、PFI事業の業績が豊富な企業等13社を抽出し、意向調査を行った。
本事業への参画意向:13社中12社が参入意欲ありと回答
望ましい事業方式:13社中11社がPFI(BTO)方式と回答
望ましい事業期間:13社中12社が混合型と回答
望ましい事業期間:13社中12社が約15年(3事業)、約20年(3事業)
民間の得意工夫(PFI方式):13社中12社が得意工夫が可能と回答
コスト削減(工夫):13社中12社が可能もしくは可能性があると回答
- (3) 事業方式によるVFM評価
従来事業方式と、本事業にPFI方式を導入した場合のVFM(コスト削減効果)の算定を行ったところ、PFI方式では約8% (現在価値ベース)のVFMが見込まれた。
- (4) スポーツ施設の先行PFI事業の整理
PFI事業で整備された体育館のうち、本事業に類似した延床面積が10,000㎡程度以上で、体育館整備が主な事業である8つの事例を整理した。

(PFI事業の参考事例の特徴)

項目	内容
事業方式	BTO方式(8事業)
事業類型	混合型(6事業) サービス購入型(2事業)
事業期間(維持管理・運営期間)	約10年(2事業)、約15年(3事業)、約20年(3事業)
民間事業者の事業範囲	設計・建設・維持管理・運営をPFI事業の業務範囲に包含(8事業)

●本事業の事業手法

- 本事業による民生活可能性調査の結果や、他府県の先行事例により以下の意義を見出すことができる。
 - ・PFI方式で実施した場合、一括発注や性能発注により、従来方式に比べてコスト削減が実現され、約6%のVFM(経費削減効果)が得られること。また財政支出の平準化が図られること。
 - ・PFIにおいては、広く民間の技術的・経営ノウハウや創意工夫を活用することが期待でき、サービスマスターの向上が見込まれること。
 - ・民間事業者への意向調査の結果では、ほとんどの民間事業者が本事業への関心を示しているほか、先行事例の体育館のPFI事業の応募状況を含めても、意欲の高まりがあり、類似事業でも一定の競争環境が確保され、サービスマスターの向上およびコスト削減効果が高まることが期待されること。

●PFI方式の事業スケジュール

